



北海道駒ヶ岳の噴火警戒レベルを2へ引上げ

本日（2日）7時30分に北海道駒ヶ岳の噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に上げました。

概要や警戒事項を添付のとおりお知らせいたします。

問合せ先：気象防災部 地震火山課 担当 高田・長山
電話 011-611-2422

北海道駒ヶ岳の噴火警戒レベルを2に引き上げ

情報発表時刻 (発表官署)	令和8年10月2日07時30分 (札幌管区気象台)
情報種別	噴火警報(火口周辺)
噴火警戒レベル	噴火警戒レベルを1(活火山であることに留意)から2(火口周辺規制)に引き上げ
火山活動の状況	北海道駒ヶ岳では、2日0時頃から山頂火口原方向が上がる傾斜変動が見られる中、山頂火口原浅部を震源とする火山性地震が増加しています。 火山活動が高まっており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があります。

防災上の警戒事項

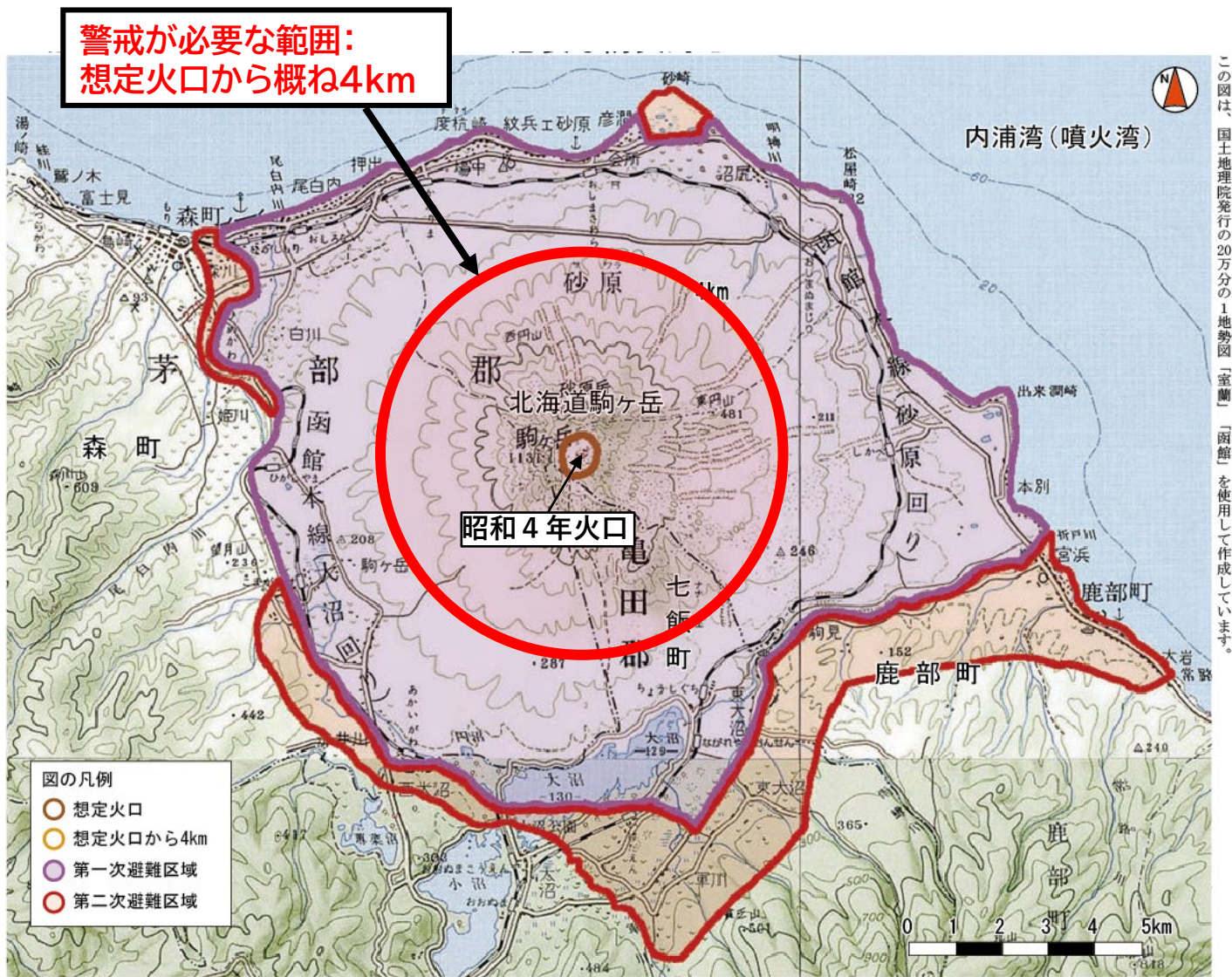
- 火口から概ね4 kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
- 地元自治体等の指示に従って、危険な地域には立ち入らないでください。
- 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

北海道駒ヶ岳の位置及び警戒範囲

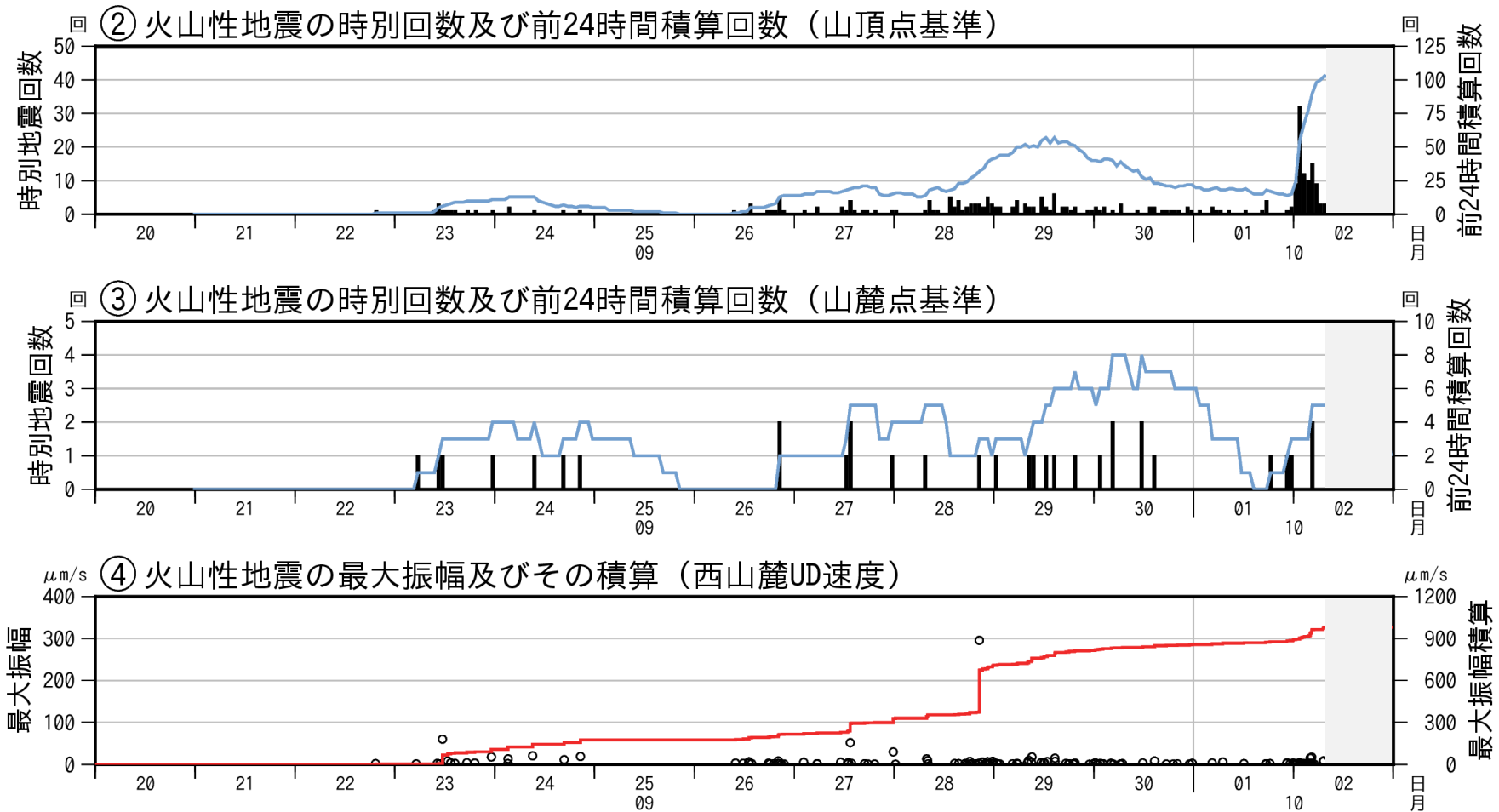


北海道駒ヶ岳
(ほっかいどうこまがたけ)
Hokkaido-Komagatake

北緯42° 03' 48"
東経140° 40' 38"
標高1,131m
(剣ヶ峰)(標高点)



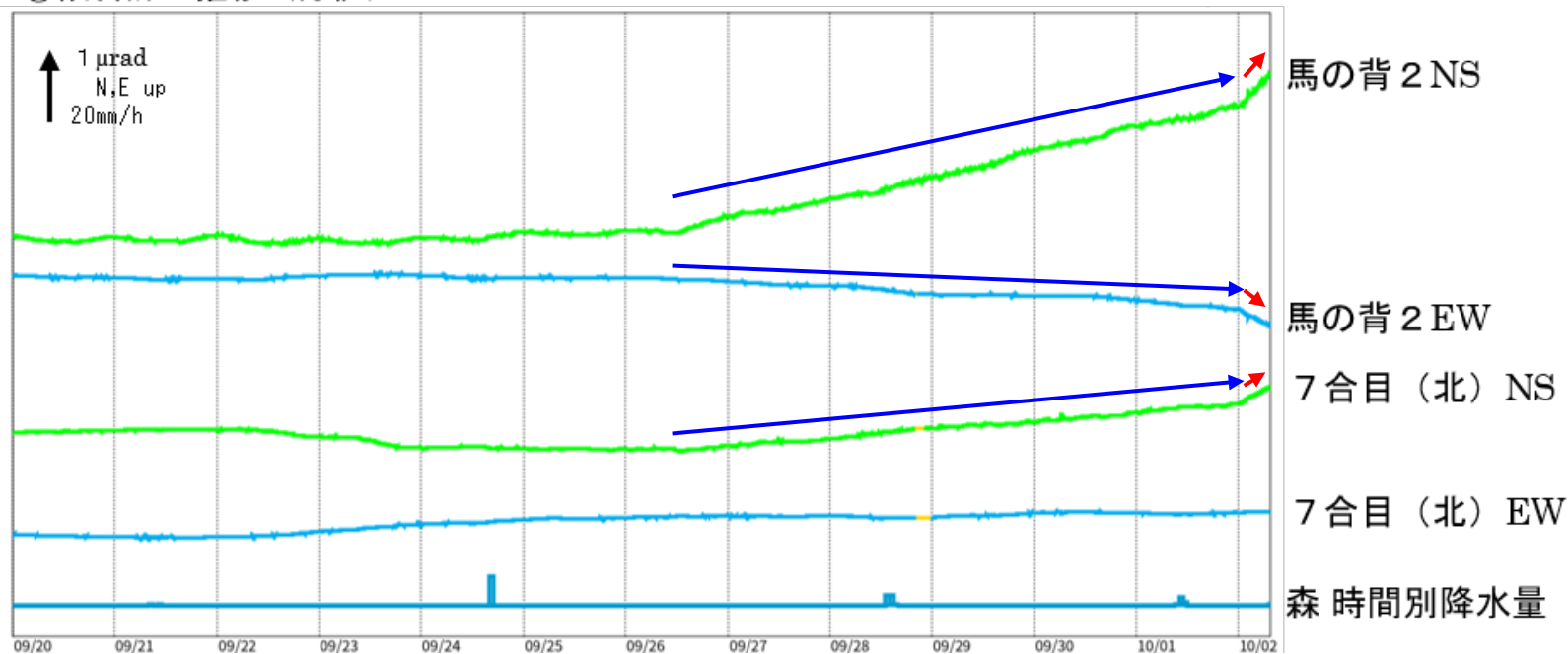
火山活動の状況



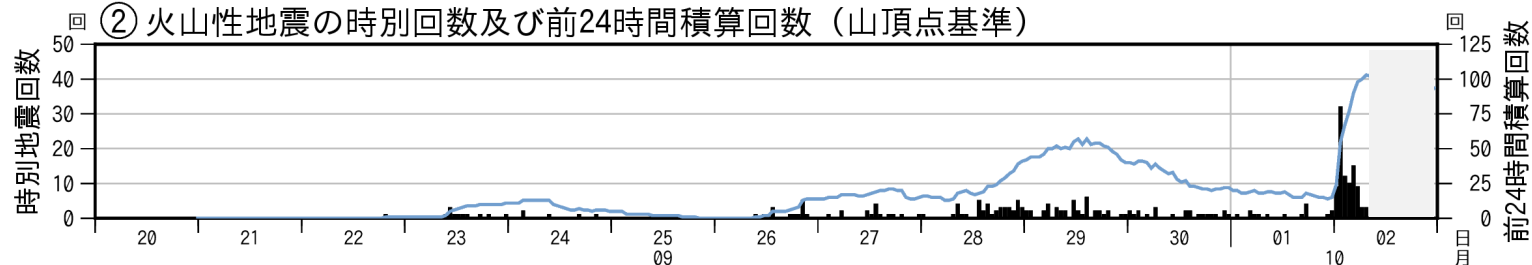
火山活動経過図（2026年9月20日～10月2日07時30分）

火山活動の状況

①傾斜計の推移（分値）

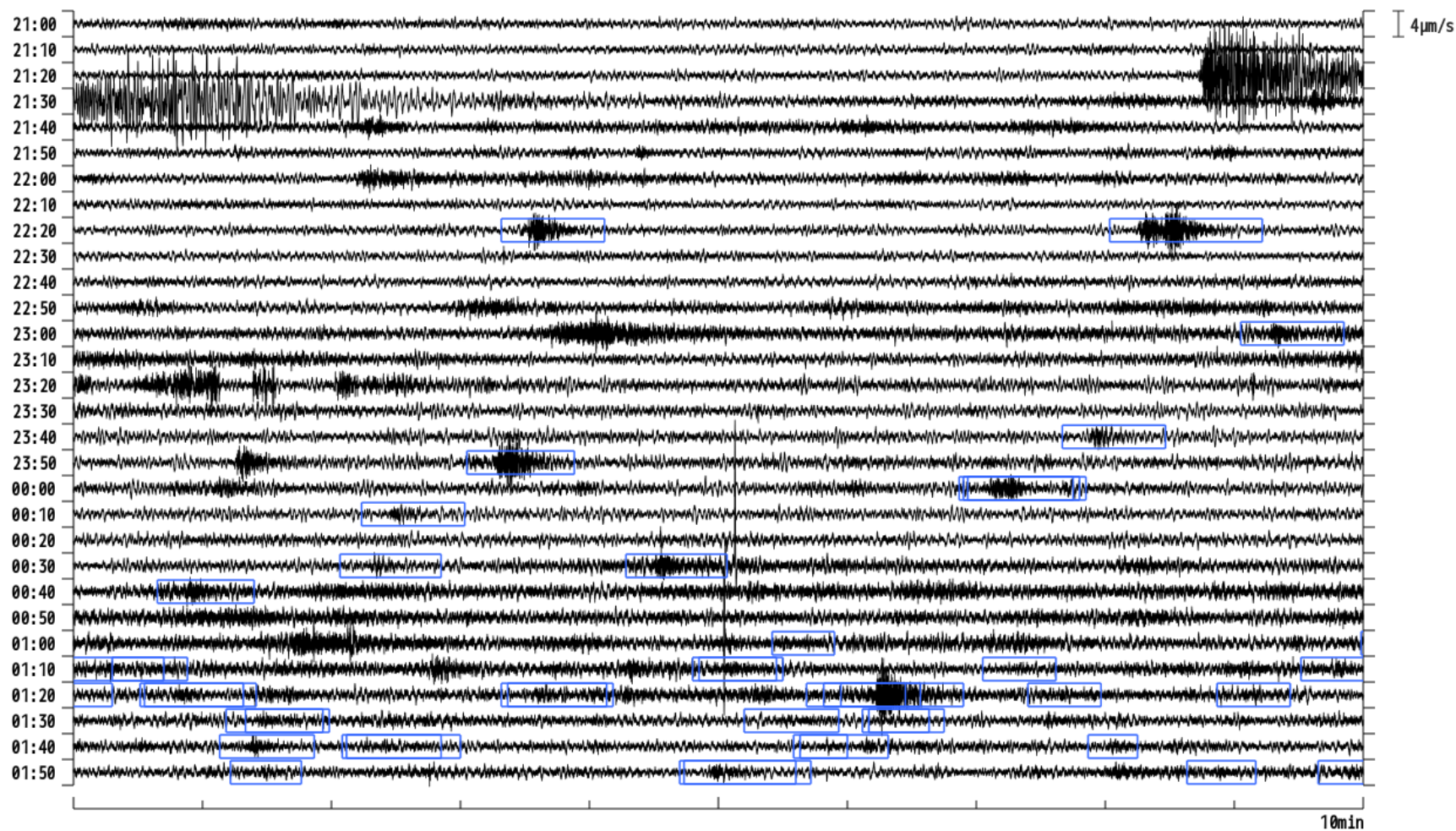


②火山性地震の時別回数及び前24時間積算回数（山頂点基準）



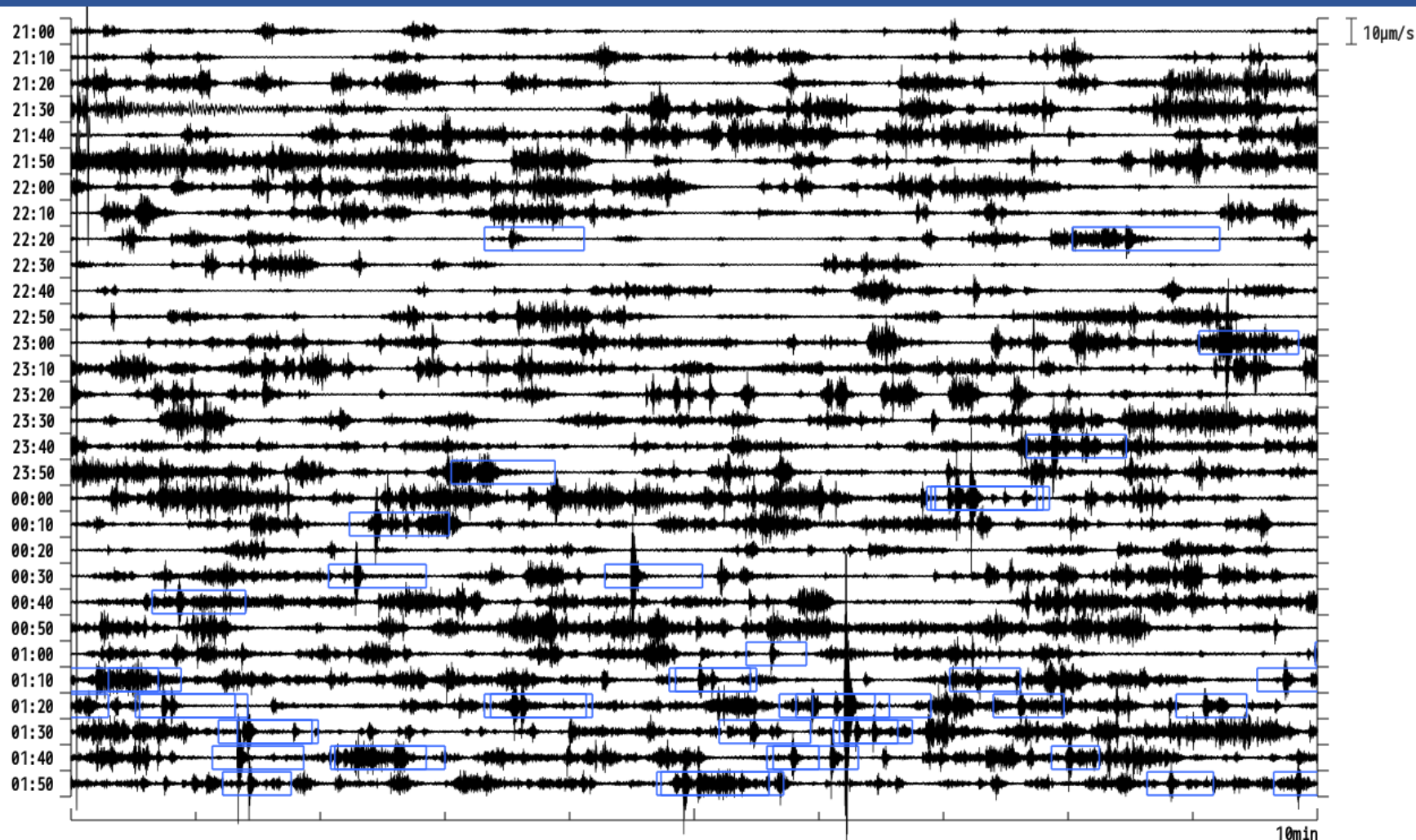
火山活動経過図（2026年9月20日～10月2日07時30分）

火山性地震の発生状況



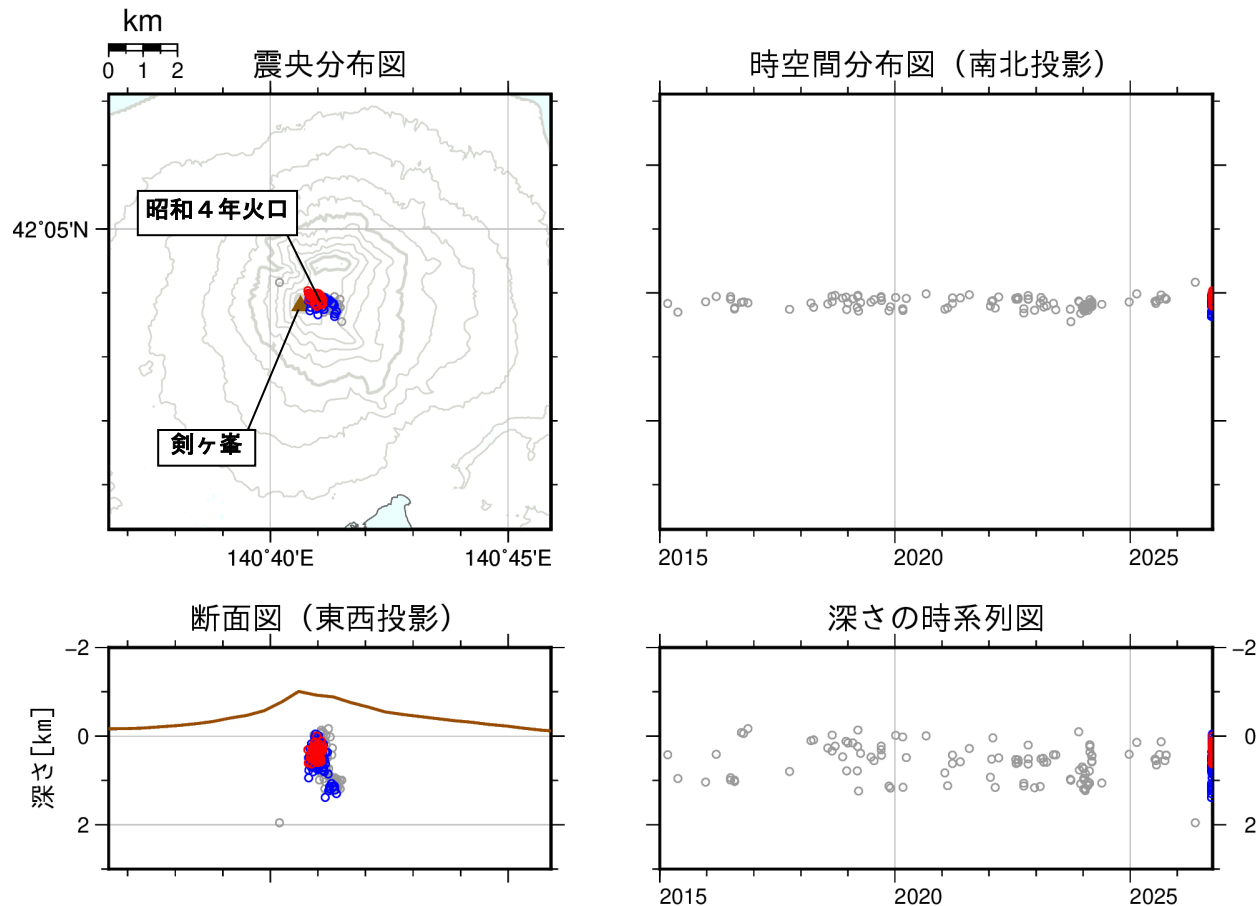
西山麓観測点（山麓の観測点）の上下成分速度波形（2026年10月01日21時～02日02時）
 青枠□は山麓・山頂のいずれかもしくは両方で計数された火山性地震

火山性地震の発生状況



剣ヶ峯東観測点（山頂の観測点）の上下成分速度波形（2026年10月01日21時～02日02時）
青枠□は山麓・山頂のいずれかもしくは両方で計数された火山性地震

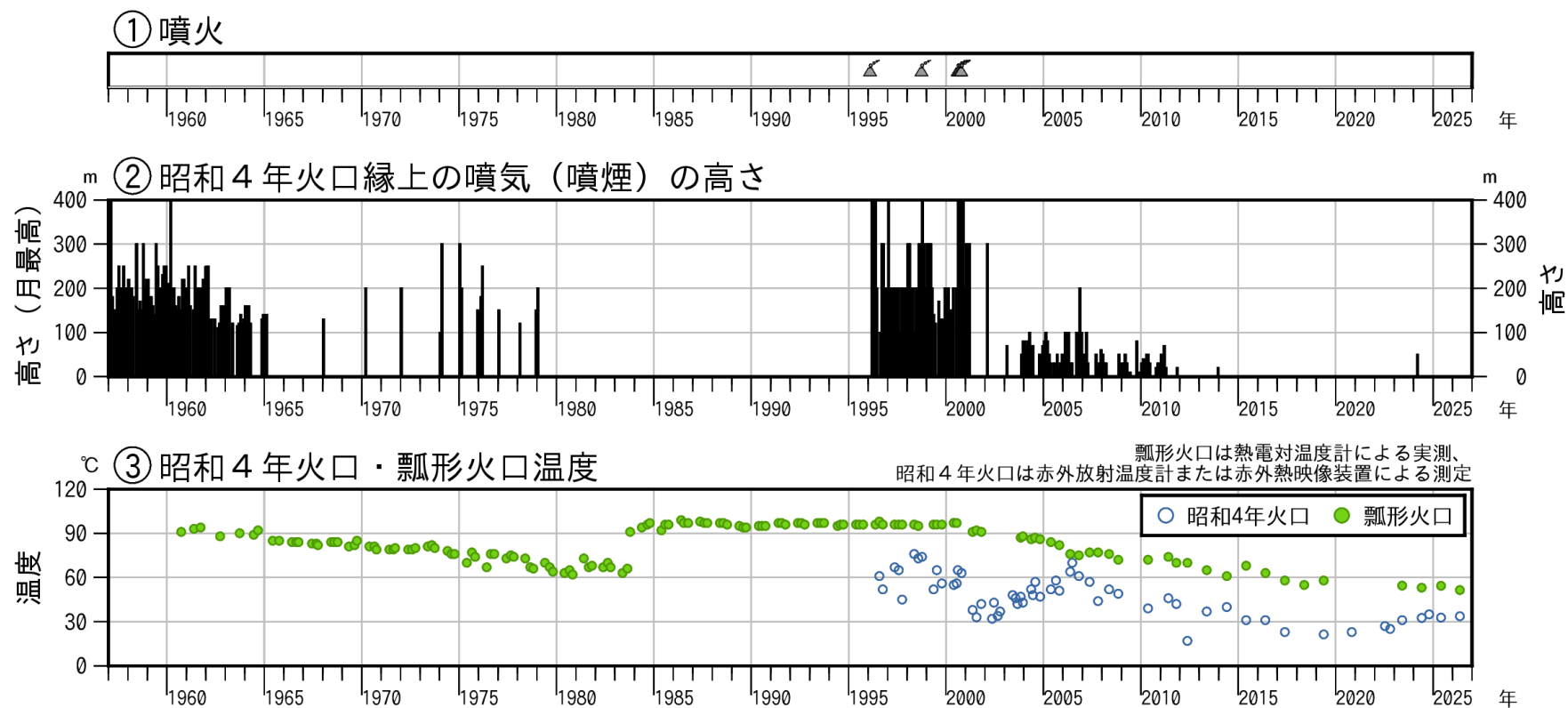
火山活動の状況



北海道駒ヶ岳の震源分布（2015年1月～2026年10月2日07時）

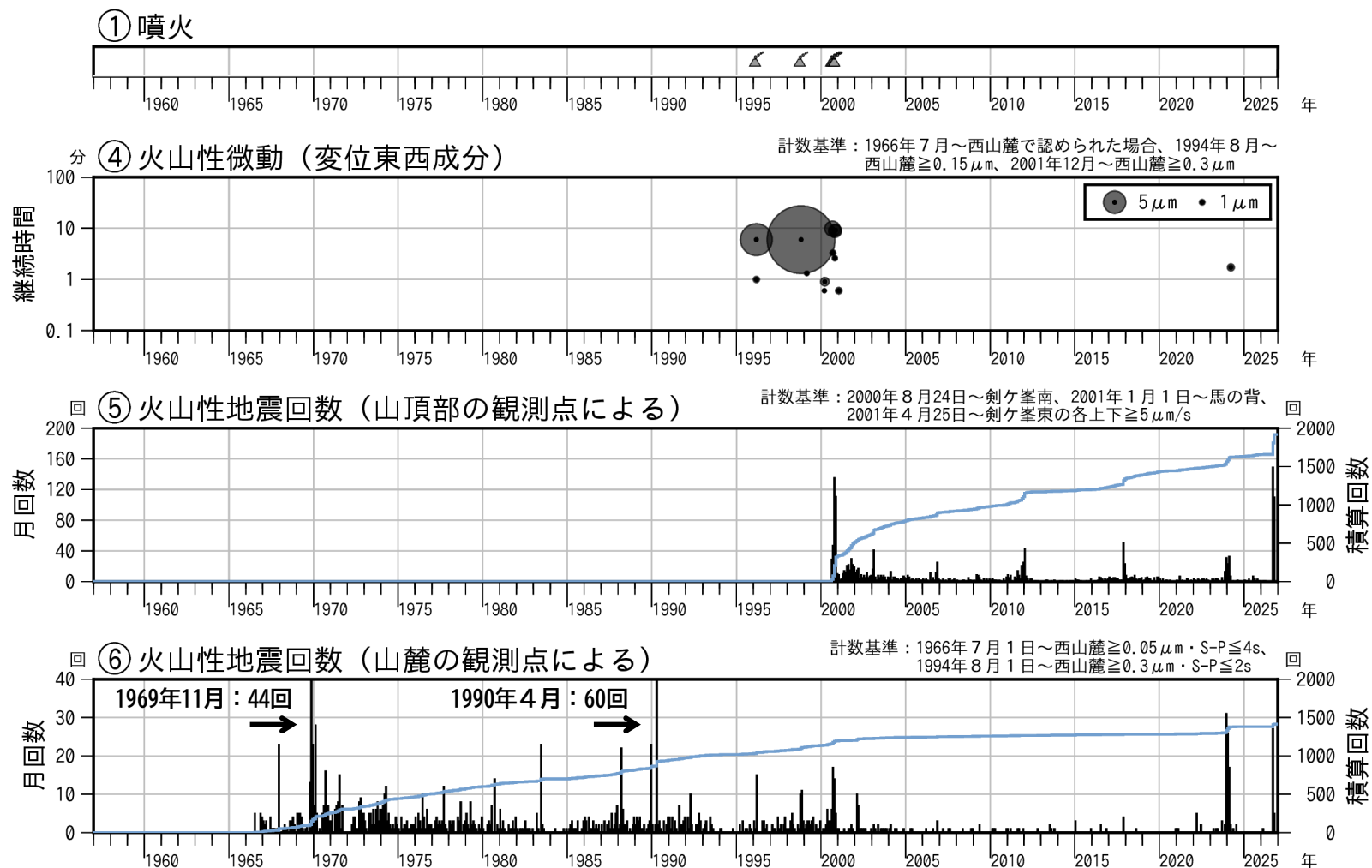
- ：2015年1月～2026年9月22日の震源
- ：2026年9月23日～9月30日の震源
- ：2026年10月1日～10月2日07時の震源

火山活動の状況



火山活動経過図（1957年1月～2026年10月2日08時）

活動経過図



火山活動経過図（1957年1月～2026年10月2日08時）

監視カメラの状況



南東側から見た山頂火口原の状況
(鹿部公園南東監視カメラによる)

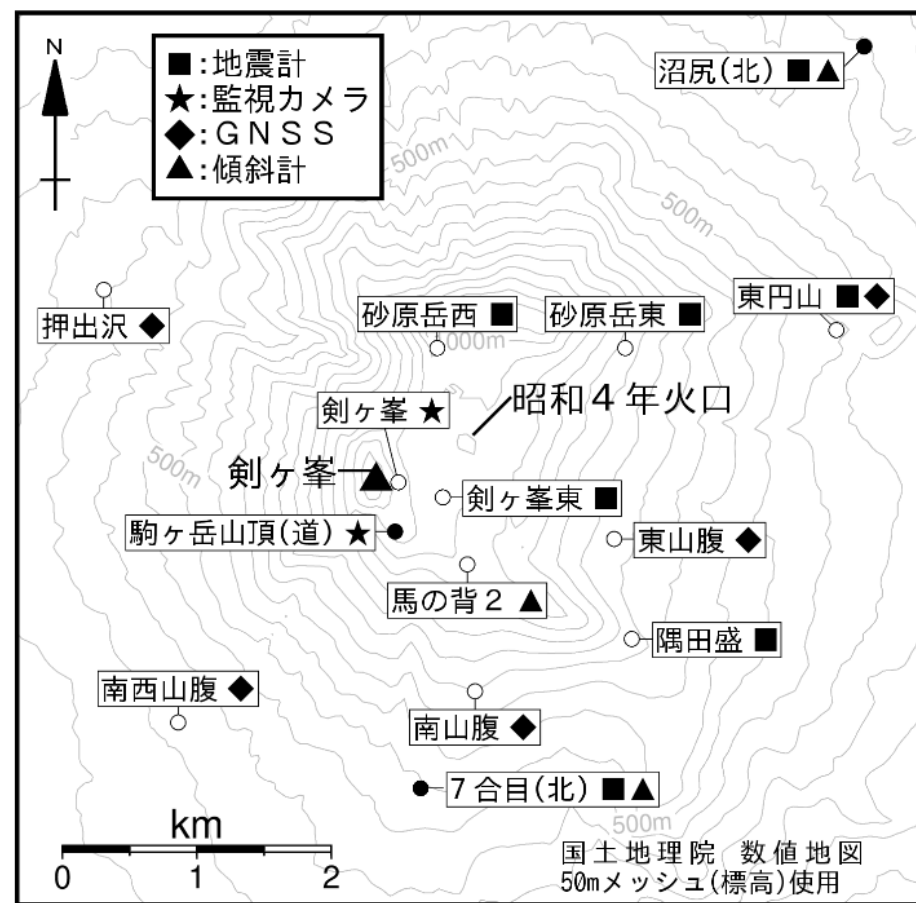
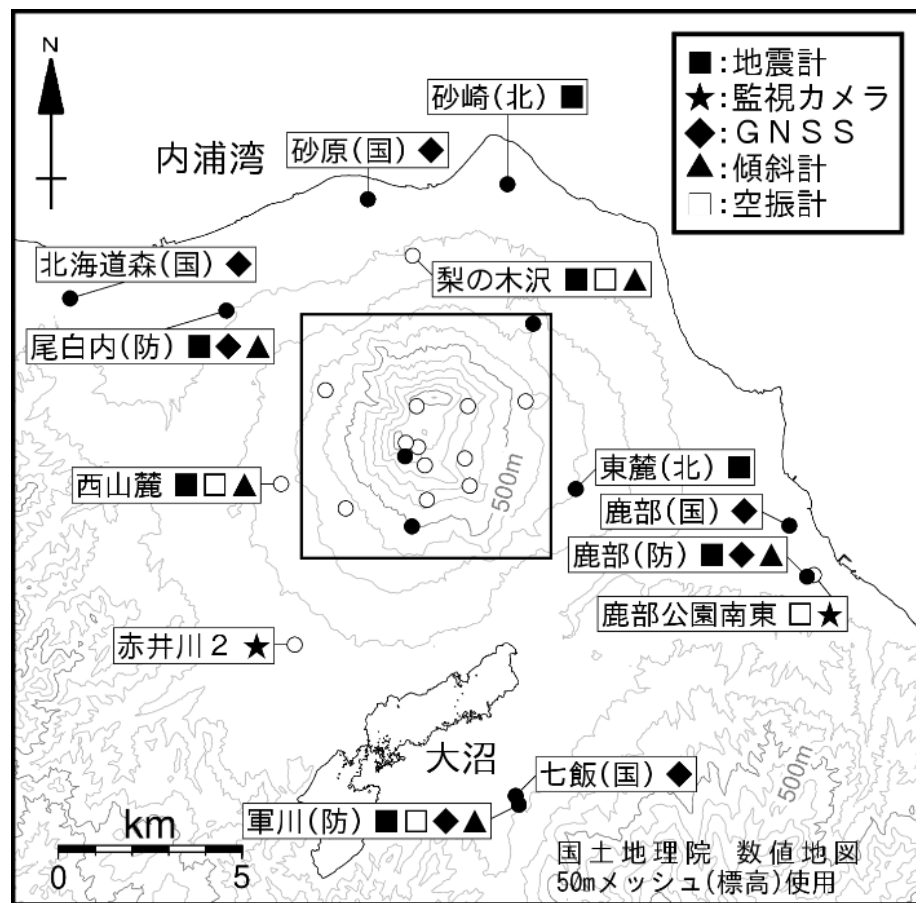
各火口の噴気活動の状況に
特段の変化は認められません。



南西側から見た昭和4年火口付近の状況
(剣ヶ峯監視カメラによる)

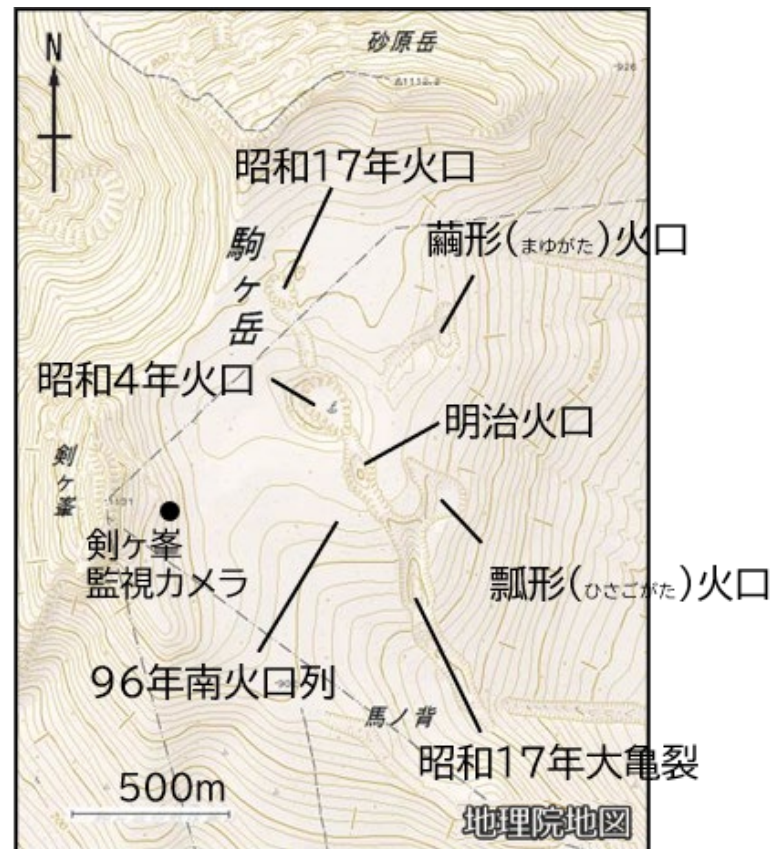
昭和4年火口の噴気活動の状況に
特段の変化は認められません。

北海道駒ヶ岳の観測点配置図



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道):北海道

北海道駒ヶ岳の山頂火口原周辺図



北海道駒ヶ岳の噴火履歴（有史以降）

年代	噴火の状況
1640(寛永17)年	大規模マグマ噴火（総噴出物量 2.9km^3 ）、軽石降下、火砕流発生、岩屑なだれで津波発生（沿岸で700余名溺死）
1694(元禄7)年	大規模マグマ噴火（総噴出物量 0.36km^3 ）、軽石降下、火砕流
1856(安政3)年	大規模マグマ噴火（総噴出物量 0.21km^3 ）、降下軽石で死者2名、火砕流で死者19～27名、安政火口生成
1888(明治21)年	水蒸気噴火
1905(明治38)年	水蒸気噴火、安政火口南側に新爆裂火口（明治火口）、二次泥流
1919(大正8)年	水蒸気噴火
1923(大正12)年	水蒸気噴火
1924(大正13)年	水蒸気噴火
1929(昭和4)年	大規模マグマ噴火（総噴出物量 0.34km^3 ）、噴煙高度13900m、軽石降下、火砕流、死者2名、昭和4年火口・繭型火口・瓢型火口生成
1937(昭和12)年	水蒸気噴火
1942(昭和17)年	中規模マグマ水蒸気噴火（総噴出物量 $0.002\sim0.003\text{km}^3$ ）、噴煙高度8000m、火砕サージ、山頂火口原に長さ約1.8km大亀裂（割れ目）生成、泥流

北海道駒ヶ岳の噴火履歴（最近）

年代	噴火の状況
1996(平成8)年3月5日	小規模水蒸気噴火（噴出物量12万トン）、昭和4年火口内に「96年主火口」、昭和4年火口の南側火口原に延長約200mの「96年南火口列」生成
1998(平成10)年10月25日	小規模水蒸気噴火（噴出物量5万トン）、昭和4年火口内に「98年火口」生成、
2000(平成12)年9月4日	小規模水蒸気噴火（噴出物量10万トン）
9月12日	ごく小規模水蒸気噴火（噴出物量不明、火口周辺で微量の降灰確認）
9月28日	小規模水蒸気噴火（噴出物量不明、南東山麓の東大沼地区など昭和4年火口から約10kmの範囲で微量の降灰）
10月24日	ごく小規模水蒸気噴火（噴出物量不明火口原馬ノ背付近までの範囲に微量の火山灰）
10月28日	小規模水蒸気噴火（噴出物量3万トン）
11月8日	小規模水蒸気噴火（噴出物量不明、昭和4年火口から約12kmの鹿部漁港付近までごく微量の降灰）

北海道駒ヶ岳の過去の噴火警戒レベル変更

	噴火警戒レベル	
2007年12月 1日	噴火予報 (レベル1、活火山であることに留意)	レベル運用開始

発表した情報などについて

○ 発表した情報

- 噴火警報・噴火速報の発表状況
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=volcano>
- 降灰予報
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ashfall>
- 火山に関する情報の発表状況
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/volinfo/volinfo.php>

○ 情報の解説

- 噴火警戒レベルの判定基準
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/keikailevelkijunn.html>
- 火山別に設定された噴火警戒レベルの解説（リーフレット）
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/keikailevel.html>
- 噴火警報・予報の説明
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/volinfo.html>
- 噴火警戒レベルの説明
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/level_toha/level_toha.htm
- 火山に関する情報や資料の解説
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/vol_know.html

○ 火山災害から身を守るには

- 火山登山者向けの情報提供ページ
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/map_0.html
- 火山災害から命を守るために
（内閣府 防災情報のページ）
https://www.bousai.go.jp/kazan/eizoshiryo/tozansha_shisetsu.html
- 気象庁防災情報X（旧Twitter）
https://twitter.com/JMA_bousai



噴火警戒レベルの判定基準表の抜粋(レベル2、3)

3	【大きな噴石が火口から概ね4 km以内に飛散する噴火（小噴火）が発生】 次のいずれかが観測された場合 ・大きな噴石が火口から概ね4 km以内に飛散 ・有色噴煙 ＜視界不良時＞ ・空振を伴う火山性微動または火山性地震の発生 【大きな噴石が火口から概ね4 km以内に飛散する噴火（小噴火）の可能性】 ・レベル2の地震を上回る規模の増大や回数の増加 ＜視界不良時＞ ・継続時間5分以上の火山性微動が発生	噴火の発生がなくなり、地震活動が低調な状態が1ヶ月程度継続し、その間に火山性微動がなく熱活動の活発化がみられない場合には、噴火活動が終息したとしてレベル1に引き下げる。ただし、噴火の発生がなくなり1ヶ月程度経過しても地震活動や熱活動が噴火活動以前の状態に戻っていない場合は、火山活動を評価した上でレベル2に引き下げる。
2	【異常現象観測】 次のいずれかが観測された場合 ・火山性微動が発生（西山麓観測点で継続時間2分以上） ・火山性地震の増加（任意の24時間で西山麓観測点で5回以上かつ山頂点（剣ヶ峯東観測点）で100回以上） ・噴気量増加等の熱活動の活発化	噴火の発生がなく、左記の条件を満たさなくなった状態が1ヶ月程度継続した場合、レベル1に引き下げる。ただし、その後さらに1ヶ月程度のうちに火山活動が再び上昇に転じたと判断した場合は、左記の条件に達していなくてもレベル2に戻す。